

1993年2月15日発行 1975年2月28日第3種郵便物認可
毎月1回15日発行
定価／150円
年間購読料／2,000円
(送料共)

編集／緑の地球ネットワーク(準)
Green Earth Network

大阪市港区市岡元町3丁目9-16 西建ビル
TEL.06-583-1719 FAX.06-583-1739 (毎552)
郵便振替 大阪4-128465
COM21 通巻306号 発行/COM企画室

緑の地球 GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力

- ネパールへ6月調査団派遣.....P 4
- 中国緑化協力団を4月派遣.....P 5



のろし台のある黄土高原の村

1993・2

13

GEN正式発足せまる

結成集会をみんなで成功させよう！

GEN正式発足まであと二ヵ月余りと迫ってきました。第二回実行委員会が2月3日開かれ、結成に向けての準備活動が本格的に開始され、実行委員長に佐野茂樹氏を決めるとともに、準備活動を3つの作業部会に分けてすすめていくことを決定しました。

第一作業部会はGENの会則、組織体制、活動方針などを検討することとし、結成まで充分時間をかけて納得のいく議論を積み重ねていくこととしました。また第二作業部会は4月11日の結成記念シンポジウムを成功させるための準備活動をすすめ、第三作業部会は会員の拡大、賛同者の組織化など主としてGENの組織基盤を拡充させる活動をすすめます。当面実務面で先行させていく必要から第二・第三作業部会を一つにまとめて活動を押し進めていきます。実行委員会では各作業部会の責任者を中心に、それぞれ原案の作成と検討を開始しています。

第一作業部会の検討は昨年の準備会結成以来活動を担ってきた方々と新しく結成準備作業に参加されてきた方々の意見を調整しながら、GENの目的や性格、活動のありかたをはじめ参加型の開かれたネットワークをどう形成していくのかを検討していきます。一方、第二・第三作業部会の活動はシ

ポジウムの実行準備を整える必要もあって、チケット、チラシ、ポスター等の作成を先行させています。同時にチケットの販売やチラシ頒布等の宣伝活動を活発に展開するために具体的な活動日程を決め、会員・支持者のみなさんが参加しやすい様々な方法を出しあうところから検討に入っています。

4月11日の結成記念行事として、すでに第I部・矢吹紫帆さんのシンセサイザー演奏によるコンサート「緑のメッセージ」、第II部・緑の地球ネットワーク・シンポジウム「なぜいまアジアの緑か？」の開催を決定しました。シンポジウムのパネリストとしては槌田劭さん、石田紀郎さん、稻村昭南さん、深尾葉子さんの4氏が決まりシンポジウムの充実した陣容が整っています。

また、結成に向けての会員の拡大、賛同者の拡充という組織態勢も、この一年間準備会の会員として支えてくださった方々をはじめ、緑化基金に協力してくださった総勢400名の方々のご支持を引き続きお願いするとともに4月正式発足までに500名の会員構成を目指し組織拡充を目指して頑張っています。

正式発足するGENが、その名称にふさわしいネットワーク運動を展開で



第1回実行委員会(1/19)

きるかどうかは、この準備過程に参加された各自の取り組みのありようにかかっています。地球環境問題は人類の発展の対極をなす負の遺産であり、その点で全人類的課題ですが、その性格上、間口も広く、取り組む角度も様々です。発足にあたってはこの点を充分考慮して、考え方は多様に、実践は単純にという方向で準備活動を活発化していきたいと思います。

GENの結成はそれ自体微力でさやかなものであっても、人間と人間、人間と自然の関係を問いかね、地球環境に与えていた負荷を削減していく道を探る第一歩だと思います。「地球環境のための国境をこえた民衆の協力」を呼びかけて、アジアの森林再生をおし進める緑の地球ネットワークの結成に多くのみなさんが参加されるよう心から訴えます。

緑の地球ネットワークシンポジウム

国境を越える緑の風

第1部(PM1時~1時45分)

矢吹紫帆・10万人とふれあうコンサート

緑のメッセージ ●シンセサイザー演奏矢吹紫帆さん

第2部(PM2時~4時50分)

シンポジウム なぜいまアジアの緑か？

●パネリスト

槌田 勉さん
京都精華大学教員

稻村昭南さん
アジア自然塾塾頭

石田紀郎さん
京都大学教員

深尾葉子さん
大阪外国语大学教員

とき/1993年4月11日(日)

ところ/ピースおおさか・ホール

JR・地下鉄「森の宮」駅徒歩5分、大阪城公園内

参加費 1,700円(前売 1,500円)

主催/緑の地球ネットワーク

後援/(財)大阪国際平和センター(ピースおおさか)

■当日GEN会員総会を行います。

●4月11日午前11時~12時(予定)

●アビオ大阪(大阪市立労働会館)



柴刈り体験記

切ってもいいかな…… 里山で自然と共生するには

おじいさんは山へ柴刈りに、おばあさんは川へ洗濯に……。おなじみの昔話「桃太郎」よろしく、今回の自然と親しむ会はついに“柴刈り”を体験しました。所は大阪北部・能勢の山奥にある府立青少年野外活動センター。1月24日、前日降った雪が所々に残る曇



こんな具合でいいのかな

天の寒い日にかかわらず約40人が参加しました。

集合場所の阪急池田駅から、車10台を連ねて1時間弱で山奥のセンター

に到着。里山を守る運動を続けていた「大阪自然環境保全協会」の金谷薰理事ら3人から里山の保全運動の話を聴いた後、まずは持参の弁当で腹ごしらえ。昼食後、カマやノコギリの使い方を教えてもらい、いざ柴刈りへ。

指定された場所は“ドングリの森”にする所で、クヌギ、コナラなどドングリのなる木以外の草木を刈る算段。最初にササなどの下草をカマで刈った後、ソヨゴやアセビなどの木をノコギリでギリギリ。実をつけたツツジや5m以上の“大木”も「本当に切っていいのかなあ」とうしろめたさを持ちながらバッサリ。「木さんゴメンナサイ」。休憩では、刈り取った木でたき火をしあげました。

40人が2時間かかって柴刈りできたのは約200平方㍍。軽トラックなら3台分以上の柴が集まりましたが、協会の人に「今の一般家庭が使うエネルギー

一量に換算したら3日ももたないので」と言われ、参加者も日ごろの大量消費を実感したのでした。

金谷さんによると、緑を守るのには二つのやり方があって、一つは人が全く手を加えずに放つておく。もう一つは柴刈りなど、手を加えながら守っていく。同協会は後者の運動を進めていて、こうすれば自然と共生でき、身近な自然を守る気持ちが生まれてくる、と言っておられました。

(岡田光司)



道具の扱い方など真剣に聞く

緑の地球ネットワーク 正式発足ご賛同のお願い

緑の地球ネットワークは4月11日正式発足します。

この1年間に準備会へ入会されたかたは305名、緑化資金を直接提供されたかたが100名以上、絵はがきの販売やパネル展など催しのさいに協力してくださったかたは数えきれません。

たくさんのみなさんの協力で、92年春から中国・黄土高原ではじまった緑化協力も順調にすすみ、ネパールでの協力も佐野代表世話を人の数次の考察行をへて具体化しようとしています。

いま最大の課題は、4月11日の会員総会とシンポジウムを成功させることです。多くのみなさんのご賛同とご協力ををお願いいたします。

正式発足賛同金

一般1口 3,000円

特別1口 50,000円

(1回かぎりです)

- *ご賛同いただいたかたにはシンポジウムの参加券を贈呈いたします。
- *会員のみなさんには重ねてのお願いで恐縮ですが、発足にさいしての特別の事情をご理解くださるようお願いいたします。

緑の地球ネットワーク賛同者

(93.2.10現在・敬称略)

- 井上 清(京都大学名誉教授)
- 今井 澄(参議院議員)
- 上田 信(立教大学助教授)
- 大内 力(経済学者)
- 加藤昌彦(関西外国语大学教員)
- 熊野勝之(弁護士)
- 黒田了一(大阪市立大学名誉教授)

小島晋治(神奈川大学教授)

小林海暢(真言宗泉涌寺派管長)

関 寛治(立命館大学国際地域研究所所長)

竹内芳郎(〈討論塾〉主宰)

寺尾光身(大学教員)

田 英夫(参議院議員)

遠山正瑛(沙漠開発研究所長)

長谷川俊英(堺市議会議員)

原 伊市(全国自然保护連合理事)

柳原三太郎(公務員)

柳原恵子(教員)

山口 定(大阪市立大学教授)

山室賢太郎(代表役員)

渡辺武達(同志社大学教授)

*ご入会いただいたかたも一部含まれています。

ネパール・ヒマラヤの 緑化協力をめざして

緑の地球ネットワーク（準）代表世話人 佐野茂樹



ネパールの農村で・中央が高力恵子さん
【ネパールの水土流失】

これまでネパールでの緑化協力を求めてきましたが、今年は植林着手にむけて一步前進したいと思います。

具体的には、ヒマラヤのムスタン地方（ネパール内のムスタン王国）の現地調査に、6月初めから約6週間かけてとりくみます。

昔から恵みの洪水でバングラデッシュを潤したガンジス＝布拉マプトラ河は、今しばしば巨大な災難をもたらす最悪の河川と化します。ヒマラヤから数多くの河川がこの大河に流れこみますが、この地域の森林衰弱が保水力を後退させたことが大水害につながるのでしょうか。同時にかけがえのない表土が奪われています。ネパールの全国土から毎年2億トン以上の土壌が失われるといわれています。

ネパールのもともと有力な資源は水、土そして森林でしょう。その森林がどんどんなくなることで、水土流出が激烈になっているのです。このことは、90パーセント以上が農村に住み、

農業にたずさわるネパールにとって直接、生存にかかわることがあります。もっとも主要な熱源である薪にも事欠くことになります。

【ムスタン】

ムスタンはガンジスに注ぐカリ・ガングダキ河が貫流するヒマラヤの一地方です。面積3600平方キロ（大阪府の約2倍）、人口は（昨年10月の聞きとりで）1万4500人。河沿いにある村々は、すべて標高2000メートルから4000メートル以上。8000メートルを越すアンナブルナ、ダウラギリの北方に位置しますが、森林も草原も最近、衰弱が激しい。そして多くの植林国際協力もうまくいっていないようです。

それは何故か、この核心をつかむ旅になるでしょう。自然と深く親しみ、この地の素晴らしい人びとと密に触れあうことで進路を見つけることができるでしょう。

まずは、それぞれの現地の人びとともに歩き、語りあう調査から始まり



ムスタンへ向かう道

ます。そして、苗場、植林地を定めることが第一歩です。

カリ・ガンダキ上流のアッパー・ムスタンでの緑化協力を将来展望しながら、ローラー・ムスタンから着手したいと思います。

アジア自然塾の人びとと一緒にとりくみます。

調査行をともにしたい方々は、ぜひご参加ください。

スケジュールなど概略は以下の通りです。

- 出発（遅くとも）6月1日
- 滞在 約6週間（一部の人びとは以後も滞在）
- アジア自然塾の人びとと合わせて15人程度で行動をともにしたい。
- カトマンドゥまでは航空便
カトマンドゥ→ボカラはチャーターバス便
ボカラからは全行程、原則として徒歩行一部分、馬を使うことあり。
- はじめ、ボカラからジョムソンを経て、アッパー・ムスタンに入る。
アッパー行程は1週間。
後半は、ローラーの村々を重点的に訪ねる。
(なお、未確認のことが多く、くわしいことは佐野茂樹までお問い合わせください。)

口コミで広がる協力

去年の秋、佐野さんから、五條のNTTのコミュニティコーナーで「黄土高原に緑を！」パネル展を開催すると聞きました。拝見するのを楽しみにしていました。

2月1日朝、にわかに友人たちとお手伝いすることになり、36枚のパネルをかけました。中国と日本の人たち、子どもたちの顔も大きく写ったパネルは、なかなか明るく、いい光を放っていました。誘いの葉書も出しました

五條市NTTロビーでパネル展

ら、早速市長さんがおみえくださいました。ここは趣味のコーナーなので、募金や葉書の販売ができません。残念でしたが、口コミで協力をいただき、なんとか五條の面目を保つことができました。

中国の黄土とは気づかず、日本のどこかのことかと思って見に来たという方が何人かありました。日本でも同じようなところがあるだろうに、何でわざわざ中国で、とも。それにしてもこ

んな地味な展覧会に、記帳して下さった方が、80名ちかくあり、なんとなくほっといたしました。同時に他の地域の具合はどうだったのかなと気になっています。

（岡 美波）



パネルの飾りつけの後で（左端が岡さん）



中国山西省黄土高原へ

4月 1993年度 緑化協力団を派遣

森林再生の相互協力をさらに深めよう！



凄まじい大地の亀裂に足がすくむ

中国の環境問題を日本のマスコミもようやくとりあげはじめました。朝日新聞の2月上旬の連載特集にショックを受けた人も少なくないと思います。

なかでも深刻なのは水土流失その他で中国の大地が人口を支える力を失いつつあることです。合理的な人口9.5億にたいして現状は1.8億超過、極限の15~16億になるのが2015年（中国科学院国情研究グループ）というのだから、もう時間はありません。

91年末、私たちが活動を開始したのは佐野代表世話人の同趣旨の警告からでした。

92年春から緑化協力を開始した中国山西省の黄土高原も、水土流失のたいへんはげしいところです。かつては森林に覆われ、気候もいまよりはるかに

穏やかで湿润だったのに、ここに中国でももっとも早い時期に文明が発達したため、大規模な生態環境の破壊がすんだのです。その経過を述べるスペースはありませんが、50年代初め、山西省の森林被覆率は2.4%（現在の日本は67%）でしたから、破壊のすさまじさがわかります。

農民の勤勉さの象徴とされてきた「耕して天に至る」段々畠は、生態系の大破壊でもありました。面積あたりの収穫の少なさを補うために、さらに耕地が拡大され、それが水土流失をより深刻なものにします。

現地の農民たちはいま、これまで1本の木もなかった山に植林し、さらにこれまで畠だった黄土丘陵の一部にも森林をとりもどそうとしています。「低地の畠の収量があがったので、環境に目をむける余裕ができた」「環境がよくなれば、子や孫の代の暮らしもよくなる」「果樹をうえて生活向上に役立てたい」。経済的貧困と生態系破壊の悪循環を、ここで断ち切るために努力がはじまっているのです。

日本の21世紀にとってもアジアの安定した生態環境は不可欠です。私たち

なにをすべきか、なにができるか、よく考えてみたいと思います。

黄土高原緑化協力の旅 団員募集

中国山西省の黄土高原における93年の緑化協力をすすめるため、4月27日から5月7日まで、協力団を派遣します。1年間の相互協力をへて、現地の人びとの理解と信頼も深まってきました。森林再生・植樹に参加し、現地の人びととひざつきあわせた交流をおこないたいと思います。またこの一帯は、日本の私たちには想像を絶する厳しい美しさを備えていますし、自分たちの暮らしのあり方をとらえかえすにも絶好だと思います。雲崗の石窟、万里の長城、北岳恒山（懸空寺）など歴史遺跡もたくさんあります。

●期間 4月27日～5月7日

●訪問地 大同・渾源県を中心に山西省雁北地区

●費用 26万円

●締切り 3月10日

■航空便の確保を急ぎますので、関心をお持ちのかたは至急にご連絡ください。

まで緑に生い茂る樹木です。

新しい年に、私たちの協力がよりいっそう発展することを希望します。こちらの活動の不十分な点、不都合な点は、なんでも遠慮なく指摘してください。今後、よりよく改善したいと思うからです。

渾源県人民政府の新任の県長・李田山さんが、緑の地球ネットワークの会員のみなさんによろしくお伝えし、みなさんがふたたび渾源にきて、黄土の大地に緑の種子をまき、全県の人びとの幸福をつくりだすことを心から歓迎する、と伝えてくれといっています。

1993.1.12 共青団渾源県委員会

書記 李啓軍

副書記 王有全

緑化協力の一層の発展を

渾源の青年たちから年賀状

山西省渾源県の共青団から新年の手紙が届きました。春節が、中国では日本の正月にあたり、爆竹やドラで、盛大なお祝いがなされます。

中国人民の伝統的な祝日、春節（旧正月）がまもなくやってきます。みなさんが新しい年を愉快にすごされ、おしごとが順調にすすみ、みなさんのご家族が健康にすごされますよう、中国の友人として願っています。

みなさんは昨年、この地の緑化事業に協力するため、数次にわたって渾源にこられました。個人の利害を離れて地球の緑化をすすめようとする、みなさんの献身的で真剣な態度は、私たち

に深い印象を残しました。いっしょに農村や山村を回ったときのこと、農家の労働、苗畠の考察、恒山での植樹活動など、いまでもはっきりと眼前に浮かんできます。（中略）

私たちは地球の緑化という事業を通じて知り合い、友誼の樹木を植えながらお互いの理解と信頼、友情を深めつつあります。いま私たちが心血と汗を注いでともに育てつつあるのは、中日両国人民の子々孫々の友好といういつ



27TH '93 International Exchange & Ecology Exhibition

VISUAL COMMUNICATIONS FOR ENVIRONMENTAL AWARENESS 日本ビジネススクール専門学校 デザイン学科

地球環境問題への関心が高まるなかつぎのような作品展示会がおこなわれます。作品の販売収益を黄土高原の森林再生に寄付してくださるというありがたい知らせが大阪国際交流団体協議会をつうじてありました。



日本ビジネススクール専門学校のデザイン学科では今年の卒業・進級制作の作品展を単なる発表会と言うだけ

ではなく、意義あるものにできないだろうかと考えてきました。

そこで、今改めて一人一人に問いかげられている、「国際交流とエコロジー」というテーマを学生一人一人が真剣に取り上げ制作した作品を、展示発表いたします。まだまだ問題のふかさを理解できた訳ではありませんが、精一杯頑張って制作した作品です。

古新聞でできた2㍍のカバ、ブリキのゾウ、自然を求めてテラリュウムになってしまったサイ等、直径7㍍高さ6㍍のメインタワー「滅び行く動物たち」は1年インテリア・グラフィックの共同作品です。海に浮かぶ国際交流都市計画、オランウータンのリハビリセンター計画、トップ・エイズのポ

スター等、2年生は「国際交流とエコロジー」のテーマを展開し個人研究による作品を一人2㍍平方の個人スペースに展示発表します。

また、手作りアニマルマスコット、オリジナルバッヂを会場にてチャリティ販売致します。

学生たちの熱いメッセージを感じ取りに来てください。

第27回デザイン学科 作品展

●とき／3月9日(火)～11日(木)
午前9時～午後5時(11日は正午まで)

●ところ／大阪国際交流センター
(ギャラリースペース・アトリウムスペース)
主催／学校法人 日本ビジネス
スクール専門学校 デザイン学科
テーマ／国際交流とエコロジー
後援／ベルギー王国総領事館
財団法人 大阪21世紀協会
社団法人 総合デザイナー協会
協力／大阪国際交流団体協議会
緑の地球ネットワーク準備会

冬の星空の ロマンを堪能

ネットワークのT氏に誘っていただいて「星空ウォッチング」の集いに参加しました。参加者は女性11名、男性4名、子ども2名(我が子!)でいろんな職種の方が集まって楽しかったです。土曜日、私たち母子3人は皆さんより少し遅れて比良げんき村に到着、泊まる所はとても素敵なお宿で、山もあるし湖も見えて、景色は抜群でした。食堂からは皆さんで用意してくださった鍋料理のよいにおいが……。夕食の後はいよいよ天文台で星空ウォッチングです。小型望遠鏡を手にテラスから月、星の観察。望遠鏡が一人に一台ずつあってゆっくりと各自で楽しめたのはラッキーでした。また、大型望遠鏡では月のクレーターがくっきりと見え、びっくり。肉眼で見えない小さな星々もたくさん見え、

「これだけあれば、いつE.T.が来ても不思議じゃないなあ」と宇宙ロマンに思いを馳せるのでした。残念ながら雲が多くて、せっかく星を捕らえても雲で隠されたりハプニングが続出でしたが、火星や金星も見れたり、それなりに堪能できたと思います。夜の交流会では、環境問題からたわいのない

よもやま話まで、夜おそくまで話がはずみました。子連れ参加は私だけで皆さんにはご迷惑をかけましたが、どの方も親切で子どもたちともよく遊んでくれ、我が子は大満足! 私も仕事や子育てのストレスから解放され、リフレッシュできました。またよい企画を楽しみにしています。(大川雅子)

山西省の自然

石原忠一
(第一次緑化協力団団長)

⑦煤炭(石炭)

記念植樹を行った恒山の中腹には、黒々と美しい石炭の地層が、登山道の脇の崖に露出していました。

今から1153年前、山西省を訪れた当時46歳の国際的知識人、比叡山の円仁は、平安朝の日本には石炭の知識がなかったので驚異の眼をひらいで、しかも理性的に、次のような巡礼行記にのこしています。

「遍山に石炭あり、近遠諸州の人は尽く來って取る。焼いて飯食を膳理すに極めて火熱あり。見ればすなわち巖石焦化して炭となるなり。人は言う、天火の焼くところなりと。ひそかにおもうに未だ必ずしも然ら

ず。」

手もとの山西省人民政府発表の資料では予測埋蔵量が、8710億㌧とありますから、人口一人当たり、実に34,000㌧の宝の山の上で生活していることになります。





思いは力――

宮崎恵美子さんに聞く



宮崎さんは親類や友人のかたたちによびかけて、GENの会員をたくさんふやしてくださいました。

「どうしてネットワークに参加したの？」最初に聞くはずだった質問を、いきなりされてしまいました。聞くのは私だったので、とちょっぴりあせりましたが、同じ新聞記事を見てGENに参加したことがわかり、何となく安心。去年1年カウンセリングの勉強をしていらした元気いっぱいの宮崎さんのお話から。

「キリスト教では、収入の一部を社会のために使うのは普通のこと。自分の生活で精一杯の時には難しいことだけど、今はできるようになったから」

「青年海外協力隊でマレーシアに行き、現地で結婚した妹を訪ねると日本がしていることがよく見える。あれだけの環境破壊をやりっぱなしというわけにはいきません。GENにはマレーシアでも活動してほしい。」

「都市部の病気の60%以上は大気汚

**かけがえのない森林を守ろう
サラワク熱帯雨林調査報告集会**
とき／3月3日(水)午後6時～
ところ／アピオ大阪(市立労働会館)
(環状線・地下鉄“森の宮”徒歩すぐ)
講演／いまなぜ熱帯雨林か
小川房人さん(大阪市立大名誉教授)

報告／サラワクの森林状況
石原忠一さん
サラワクの熱帯雨林のビデオ、
スライド上映。パネル写真展
※資料代として1000円が必要
主催／自然と緑を守る大阪府民会議
連絡先・全林野労組内
☎06-944-1441 FAX06-947-1686

染による酸素不足が原因。また、緑の不足はノイローゼの原因にも」

「人間の思いには大変な力がある。強く望めば大抵のことは実現します。テストの結果だって受ける前からわかっているのです。いい成績をとる人はそれだけの努力をしているし、悪い成績をとる人はそれだけのことしかしていない。受験勉強中の子どもにもいつも言っているんですよ。だめだと思えば本当にだめになってしまいます。ならぬは人のなさぬなりけり、です。」

4月の正式発足を前に、活を入れられたようで、引き締まった気分になりましたが、会報用の写真をとのぞいたファインダーにはとても優しい笑顔が映っていました。

(インタビュー・東川貴子)

みんなでGENを育てよう

久保朋子(アルバイト)

とても個人的な話なんですが、子どものころ、祖母によく言い聞かされたこと――。「紙の無駄使いをしていると、あの世で紙の橋を渡らされて、途中でそれが破れて、地獄におちるよ」。私は素直にそれを信じて地獄はいやだなあと思い、紙はもちろん物は何でも大切に扱うように心がけていました。

3年前、そんな私が最初に就職した会社は、紙を大量に使うところでした。と同時にミスコピーなどの故紙が大量にでるところでした。

あとは燃やされるだけの故紙の量に毎日驚き、それを見ても、何も気にしていないふうの会社の人たちにもオドロキました(心の中では気にしてたのかも)。「地獄に行きたくないし、何とかせなあかんな」そう思い、地獄に行きたくないという数人と、故紙をダンボールにつめ、故紙回収業者に電話したのですが、何百kg以上じゃないとダメだとか、いくつか条件があるらしく、取りにきてもらえないでした。紙の製造メーカーにもお願いしたのですが、回収システムはまだなく現在検討中とのことでした。結局、台車で業者まで運ぶことになりました。

そんな時、新聞でGENを知り、私

たちが今まで無駄にしてきた紙の成仏を祈るような、そんな気持ちで夏のワーキングツアーに参加したのでした。中国では、数本の木しか植えることができなかつたけれど、「再来、再来(ザイライ、ザイライ)」と言ってくれた中国のあの人たちをとてもなつかしく思い出し、また、私たちが当たり前のようにしているこの生活は、どこかおかしい、まちがってるんじゃないかなとしみじみ感じています。

多種多様の問題が山積みされている世の中の、この春にGENは誕生しますが、水をあげて大きく育てるのも私たち、枯らしてしまうのも私たち。私もGENと共に、今大きく踏みだしたいと思います。地球が紙の橋を渡る前に。

チリもつもれば環境保護

田村祐之(北海道・学生)

はじめまして。最近、朝日新聞などで中国の環境対策についての記事が連載されたり、GENでも昨年は山西省で緑化協力活動をおこなったりと、中国の環境問題がクローズアップされているようですね。私も2年半ほど中国に留学したのですが、今思うと我々外国人も中国の環境汚染に一役買っているのではないかという気がします。

たとえば学生生活でも、外国人留学生の出すゴミの量は中国人学生の何倍にもなります。風呂(あるいはシャワー)や洗濯でも、外国人は毎日それこそ「湯水のように」湯水を使いますし、外国人の絶対数が少ないとは言っても、外国かぶれの中国人が外国人的生活をまねし始めれば、日本同様ゴミ公害や生活用水不足といった事態に直面するでしょう。もっとも逆に考えれば、外国人が中国で節約を心掛け、周りの中国人にも影響をあたえれば、草の根からの環境保護にも結びつくわけですが。余談ですが、札幌ではゴミを一人一日100g減らそうというキャンペーンをしていますが、これを中国で実行すれば、一日で1万t、なんと鑑真号一隻以上のゴミをへらせるんですね。これを一年続けると……。気が遠くなりますね。

今なぜ里山か

金谷 薫(大阪自然環境保全協会)



身近な自然、里山

数年前に、どこかの偉い人が「大阪はタンツボや」と発言をして物議をかもしたことがあったように記憶しております。私はずっと大阪のそれも市街地に住んでいたので、旅行などをするたびに、大阪は緑の少ない確かに潤いの少ない町だと実感せざるを得ませんでした。最近の異常気象の原因は別としても、少なくともヒートアイランド現象は緑地の減少と密接に結びついていると言えます。都市周辺の緑地(大阪の場合でしたら、北摂、金剛・生駒、和泉の3山系)は、気候の緩和、大気の浄化、水源の涵養及び都市住民にとっても大切な役割を果たしているものです。これらの緑地がどんどん失われています。数字的に見ても

府下の森林面積の割合は30%ぐらいでこれは全国平均の約半分です。歴史が古く経済活動も盛んであり、「煙の都」や「煙突の都」と行った言葉に誇りを感じていた土地柄であったので豊かな自然とは縁遠かったとしてもやむを得ないかもしれません。

しかし、かつて、大阪周辺の山々は一大消費地である大阪や京都へ食糧、燃料を供給する役割を持っていました。特に炭やマキは重要な燃料であり、北摂などでは炭焼き用の林(薪炭林)が一面をおおっていたそうです。このような農村を中心として農用林や薪炭林を含む一帯を里山とよんでいます。大阪には原生的な自然や天然記念物のような自然はめったにありませんが、古代に稻作を始めてから、人の手によってずっと守られてきた雑木林などの里山を中心とした身近な自然があふれていたのでした。

これらの里山は、ここ何十年かの間のエネルギー革命(石油やガスの登場)や農業不振により経済的に価値がないとされ、ゴルフ場や宅地開発の絶好の対象となっています。

大阪自然環境保全協会は、1976年の設立以来、大阪の自然を守るために提言と活動をしてきました。10年ほど前より、里山キャンペーンを展開し、里山を守ることが大阪の自然を守る上で重要な位置を占めると考えてアピールをしてきました。

ここ数年は熱帯林やオゾン層の破壊、温暖化などの地球規模での環境問題がクローズアップされ人びとの環境に対する関心は非常に高まっています。しかし、里山のような自然を守る運動は、対象が大きすぎてなかなか具體化しにくいものです(従来の保護運動は特定の地域や生物などを守るスタイルのものが多かった)。そういう中で1983年に里山に生息する野生動物調査、1989年からは実際に里山へ入り里山管理としての柴刈りを開始しました。1992年からは、里山入門講座を開講し人材養成を始めています。もともと、里山は人が入って手入れをして維持してきた自然です(もちろん、人手を入れずに放置しておく部分もあります)。環境問題への関心の高まりや自然指向の中で、柴刈りや炭焼きを中心として多くの人に身近にある里山の良さ、大切さを実感してもらい、そこから大阪の自然を守る一つの大いかなうねりを作っていてくださいと考えています。

陝西省フィールドワークの現場からみた中国経済改革の現状

羅紅光さん(大阪大学博士課程・文化人類学専攻)

NGOが中国農村経済の新たな担い手に/
フィールドワークを通じて見た環境NGO最前線

●とき/2月25日(木)午後6時30分~

●ところ/港区民センター

(環状線・地下鉄弁天町徒歩5分)

※参加費 500円

ハッサク・土佐ブンタン
いらんかえ!

おなじみ高知県の田中隆一さんの産直販売のお知らせです。田中さんはGENの会員でもあり売上の一部をGE

Nにカンパしていただいています。注文は下記の田中さん宅へ電話かFAXでお願いします。その際、GEN関係だと一言添えてください。

■連絡先/高知県安芸郡東洋町甲の浦
田中隆一 電話・FAX 08872-9-2500

●ハッサク(減農薬) 10kg 3600円

●土佐ブンタン(ノ) 10kg 6000円
5kg 3000円

(出荷期間はいずれも2月下旬より
3月中旬まで)

※送料は別途負担。関西方面は620円です。

●この号が出る頃には梅の花が満開でしょう、さぞはなやかな事と思います。

(波田地浩志)



編集後記

●GENの正式発足がいよいよ間近に迫ってきました。準備作業が日をおつてあわただしくなってきます。同時に進行で、GENの活動内容や運営に関する

る真剣な議論がなされています。日頃回転しない頭のボルテージをあげ、ガンバラなあきまへんなあー(林)
●最近忙しく貧乏ヒマなしを実感しています。映画もろくに見に行つません。かなしょー。(東川)